

3月の荒海山

小沼 充範

■山行年月日:平成30年3月15日

■メンバー:小沼充範(単独)

戸坪沢出合い近くにある国道352号線の広場に車を止め10時出発。戸坪沢右岸をスキーで進むが1108mから流れる沢があり、スキーを脱いで渡る。カラマツ林の中を再びスキーをつけて進み、10時15分、沢が二俣となる尾根の取付きにたどり着く。この尾根は田島と館岩の境界稜線1230mから北へ延びる尾根である。スキーをデポし、沢を渡って尾根を登る。尾根上は明瞭な道がありマーキングがついている。八総鉾山からでなく館岩側の戸坪沢から荒海山へ登る人が多いのだろう。桧の生える尾根から西に土倉山、只見の丸山岳、東に男鹿山塊が見える。

11時40分境界稜線1230mにたどり着く。わずかに雪があるだけであり登山道が出ている。1251mを過ぎる辺りから残雪が多くなる。1360m付近の稜線上は小さなアップダウンが多く、藪が濃い。ここは稜線上を行かず、西側の斜面をトラバースして行く。このルート選びが積雪期の核心部のようにであり、急な斜面だが気温が高いため雪がざけており緊張感はない。登山道も稜線上ではなく斜面をトラバースしているようだ。再び稜線に戻り境界上を進むと目の前に荒海山が現れる。1500m付近は高さ4mほどの段差となっている。積雪期の2番目の核心部である。ピッケルを雪に突き刺し

キックステップで越えて行く。遮るものがない展望の良い登りとなり大嵐山、会津駒、三岩岳、丸山岳、那須連峰を見渡すことができる。雨量計の小屋は雪に埋もれ、頭だけが出ている。

荒海山山頂

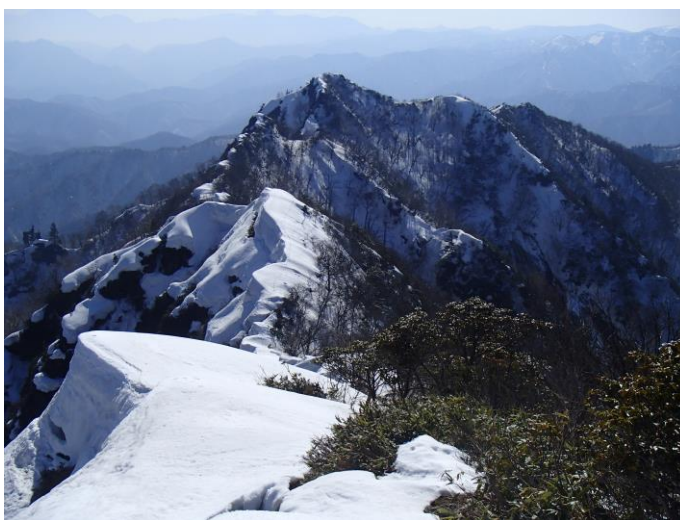


荒海山頂14時15分着。山頂を示すプレートが雪の中から出ている。遮るものがなく無雪期と違って大パノラマである。日光連山、高原山、湯西川の明神ヶ岳、館岩川沿いの集落、七ヶ岳が良く見える。三角点のある東側の山頂までは雪があるのですぐに行くことができる。荒海山の西にある次郎岳(1560m)へも行きかけたが、時間がないのでまた別の機会に登ることにする。次郎岳の東肩が雪稜となっており、なかなか手強そうである。次郎岳の中腹が鬼怒川決壊時の大雨による土砂崩壊地となっており国道352号線からも確認することができる。山頂の展望を十分に楽しみ14時45分下山開始。往路を戻る。山頂直下の段差は後ろ向きになりブッシュを利用して下る。帰りは雪がざけておりワカンがお

おいに役に立った。

国道 352 号線 17 時 40 分着。滝の原にある夢の湯で汗を流す。雪の荒海山へ行ったことがないので、今回雪の荒海山へ登ることができた。やはり戸坪沢からのルートが最短のように思われる。雪のある時期はなかなか手応えのある尾根であり、雪の荒海山を楽しむことができた。

荒海山頂から見る次郎岳



荒海山から見る土倉山と大嵐山

